

FUJITSU Server PRIMERGY RX2540 M1

ご使用上の留意・注意事項

FUJITSU Server PRIMERGY RX2540 M1 に関して、以下の留意・注意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

2019年10月
富士通株式会社

(1) UEFI モードについての留意

UEFI モードの設定方法や OS 及びオプションのサポート状況、留意事項に関しては、下記リンクをご参照ください。
<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/products/note/>

(2) CPU スロットリングのログについての留意

- 電源 1 を活性交換した際、System Event Log(SEL)に CPU スロットリングのログが記録されますが、影響軽微のため、無視してください。

(3) SMASH-CLP(*1)ご使用についての留意

SMASH-CLP を用いて電源を Off にした場合、電源 Off のアクションが SEL に記録されません。
※iRMC FW7.69F 以降でこの問題が修正されています。

(*1) System Management Architecture for Server Hardware Command Line Protocol

(4) SVS V11.14.09 を使用した OS インストール時の注意

SVS V11.14.09 を使用して OS をインストールする場合、SVS DVD に格納されている Server View RAID Manager を使用すると、Windows 環境において、SNMP サービスが停止する不具合が発生する可能性があります。Server View RAID Manager 5.8.13 以降を下記ダウンロードページから入手してインストールください。
<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/downloads/>

(5) iRMC リセット時、VGA 出力が一時的にされない件について

iRMC を WEB-IF からリセット実施した場合や、iRMC 自身の内部リセットが不慮に発生した場合など、サーバの画面出力および、キーボード/マウス操作が一時的に無効になります。30 秒程度待つと回復しますので、回復後、ご使用になるようにしてください。

(6) ビデオリダイレクション(Advanced Video Redirection)ご使用時のキーボード入力について

iRMC S4 Web インターフェースのビデオリダイレクション(AVR)のご使用時に、キーボード入力ができない場合があります。AVRウインドウ内にあるメニューバーの「キーボード」メニュー-「ソフトウェアキーボード」より、ご使用になる言語のソフトキーボード(仮想キーボード)を選択してご使用ください。

※iRMC FW7.68F 以降でこの問題が修正されています。

(7) USB 設定について

Red Hat Enterprise Linux をご使用の場合、USB を USB2.0 で使用する必要があります。
BIOS 設定の「Advanced」-「USB Configuration」-「xHCI Mode」を「Disabled」に設定してください。USB3.0 で使用した場合、オペレーティングシステムが停止する場合があります。

(8) Linux 製品 ご使用時の設定

PCI スロット 7~11 を使用するには論理 CPU 数を 9 個以上の構成にする必要があります。
論理 CPU が 8 個以下の場合、利用できないインターフェース機能が発生する場合があります。

(9) Red Hat Enterprise Linux7 ご使用時の設定

Red Hat Enterprise Linux 7 をご使用の場合、カーネルパラメータへ
「intel_idle.max_cstate=0 processor.max_cstate=0」を追加してください。追加せずに使用した場合、稀に予期せぬ
リブート等の現象が発生する場合があります。
※BIOS1.9.0 以降でこの問題が修正されています。

(10) ServerView Operations Manager、ServerView Agents のインストールについて

本装置で 64bit Linux OS を使用している環境に、ServerView Operations Manager V7.00/V7.01 (SVOM)、
ServerView Agents V7.00/V7.01 (SVA) をインストールする場合、以下の点にご注意ください。
64bit Linux OS 上では SVOM または SVA のどちらかしかインストールすることができません。
インストールを行なおうとすると以下のようになります。

- SVOM がインストールされている環境では SVA はインストールできません。
- SVA がインストールされている環境では SVOM がインストールできません。

そのため、SVA をインストールして本装置の監視を行う場合、SVOM は V7.02 以降をご利用ください。

※ SVOM V7.02 と SVA V7.00/V7.01 を組合せて使用する場合、先に SVOM がインストールされていると SVA の
インストールが行えません。SVA をインストール後、SVOM V7.02 をインストールしてください。

(11) iRMC S4 Web インターフェースご使用上の制限事項

① SNMP コミュニティ名設定時の制限事項

「ネットワーク設定」-「SNMP」から、SNMP のコミュニティ名を設定する際、記号はご使用になれません。コミュニ
ティ名設定時は、英数字のみをご使用ください。
※iRMC FW7.69F 以降でこの問題が修正されています。

② ネットワーク一覧の情報表示に関する制限事項

「システム情報」-「ネットワーク一覧」に、搭載されている NIC 情報が表示されない場合があります。なお、表示上
の問題のみの為、システム稼働には影響ありません。
NIC 情報は、ServerView Operations Manager (「ネットワークインターフェース」メニュー) よりご確認ください。
※iRMC FW7.69F 以降でこの問題が修正されています。

③ LDAP 構成設定に関する制限事項

「ユーザー管理」-「LDAP 構成設定」について、LDAP によるユーザー管理機能は使用できません。
※iRMC FW7.69F 以降でこの問題が修正されています。

(12) ポート拡張オプション(10GBASE-Tx2)(PYxLA3A2U)ご使用上の留意事項

本カードは 10G/1G/100Mbps での接続速度に対応しておりますが、1Gbps のスイッチ装置と接続する場合、リン
クアップに時間がかかること(~1 分)や、オートネゴシエーションでは 100Mbps でリンクアップすることがありま
す。

10Gbps で接続の場合は、10GBASE-T 規格に対応したスイッチ装置に接続してください。また、1Gbps で接続の場
合は、1000BASE-T 規格に対応したポート拡張オプションもしくは LAN カードをご使用ください。

(13) Linux 環境におけるポート拡張オプションの制限事項

Linux 環境では、以下のポート拡張オプションのポートにおいて、通信のスループット性能が期待値より 50%程度低
くなります。

型名	製品名	ポート番号
PYBLA302U	ポート拡張オプション(1000BASE-Tx2)	ポート 2
PYBLA304U	ポート拡張オプション(1000BASE-Tx4)	ポート 3、4

※CNA FW10.2.405.33 以降でこの問題が修正されています。

(14) ネットワークカード / システムボード交換に伴う設定情報の再設定について

Windows Server 2008 R2 を御使用の場合、ネットワークカード、またはシステムボードの交換、待機系装置への切替え、他装置へのリストア等を行うと、ネットワークコントローラを新規追加部品と装置が認識するため、ネットワーク関連の設定情報(IP アドレス / Teaming 設定など)が初期化され、再設定が必要となります。

マイクロソフト社の以下の KB(Knowledge Base)を参照の上、事前に Hotfix を適用することで再設定を回避可能ですので、適用をお願い致します。

Windows Server 2008 R2: KB2344941, KB976042 (SP1 適用時は、再度 Hotfix 適用が必要)

Windows Server 2008 R2(SP1): KB2550978, KB976042

※ Hotfix 適用にあたっての注意事項

・Hotfix はマイクロソフト社のサポートページから入手してください。

2018 年 8 月時点では、以下の URL から検索可能です。

<http://support.microsoft.com/?ln=en-us>

・Hotfix は、OS インストール時に搭載されていた部品情報を有効にするものです。

OS インストール後にシステムボード等を交換していた場合、OS インストール作業時の情報となります。

また、既にネットワーク関連の設定情報が初期化された場合も、Hotfix 適用により回復できる場合がありますので、この場合も適用をお願いします。

なお、Hotfix 適用によって回復しない場合は、ネットワーク関連情報の再設定が必要となります。この際、ハード変更前の LAN コントローラの情報が残っているため、変更前に使用していたネットワーク接続名を設定することができません。以前使用していたネットワーク接続名を使用する必要がある場合は、以下の作業後にネットワーク関連情報を再設定してください。

(1) デバイスマネージャを起動します。

コマンドプロンプトを開き、以下を実行してください。

```
set devmgr_show_nonpresent_devices=1
```

```
start devmgmt.msc
```

(2) 非表示デバイスを表示可能にします。

デバイス マネージャーで [表示] メニューの [非表示のデバイスの表示] をクリックしてください。

(3) コンピューターに接続されていない LAN コントローラを削除します。

色が薄く表示されている「ネットワークアダプタ」を削除してください。

(15) メモリご使用に関する留意事項

①本装置にメモリ-32GB(32GB 2133 LRDIMM×1) (PYxME32EA)を搭載する場合は、BIOS1.9.0/iRMC7.65F 以降の適用が必要となります。

②本装置にメモリ-32GB(32GB 2133 RDIMM×1) (PYxME32SB)を搭載する場合は、BIOS1.16.0/iRMC7.70F 以降の適用が必要となります。

③本装置にメモリ-64GB(64GB 2133 LRDIMM×1)(PYxME64EA) を搭載する場合は、BIOS1.22.0/iRMC7.82F 以降の適用が必要となります。なお、ランクスペアリング設定をご使用になる場合は、BIOS1.24.0 以降の適用が必要となります。

(16) SAS アレイコントローラカード(PY*SR3PE(L))搭載時の制限事項

本装置で SAS アレイコントローラカード(PY*SR3PE(L))をご使用の場合、リモートマネジメントコントローラ(iRMC S4)の機能の一つである、エージェントレスでのコンポーネント監視機能が使用できません。

※iRMC 7.82F 以降でこの問題が修正されています。

(17) コンバージド・ネットワーク・アダプタ(PY*CN302(L))ご使用時の留意事項

コンバージド・ネットワーク・アダプタ(PY*CN302(L))をご使用の場合は、POST (Power-On Self-Test: 電源投入時自己診断)中に、ブープ音ともに数秒間、下記の POST エラーメッセージが表示される場合があります。本エラーによる機能への影響はありません。また、本エラーメッセージは System Event Log(SEL)に記録されません。

```
POST Error : Controller BIOS version mismatch
```

```
Controller #0 Version : v10.2.405.xx (←CNA コントローラのファームウェア版数が表示されます)
```

```
Controller #1 Version : v10.2.405.yy (←CNA コントローラのファームウェア版数が表示されます)
```

```
Please update all OneConnect controllers to the same firmware version
```

(18) iRMC S4 のご使用上の留意・注意事項に関して

その他、iRMC S4 に関するご使用上の留意・注意事項については、「iRMC S4(Integrated Remote Management Controller)ご使用上の留意・注意事項」をご確認ください。本留意・注意事項は下記リンクから、ご使用の機種を選択し、各サーバ本体の個別のマニュアルより参照いただけます。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/manual/>

(19) 背面用ベイ追加オプション(PY*BA24S1/PY*A24P6)搭載時の留意・注意事項に関して

- ① 3.5 インチモデルをご使用の場合、背面用ベイ追加オプションの一般型名(PY-BA24S1/PY-A24P6)は、本体のシリアル番号が「MAVT004200」以降のものにのみ適用可能となります。
- ② 背面用ベイ追加オプションに搭載した HDD/SSD をブートデバイスとして使用する場合、BIOS 設定の「Advanced」-「Option ROM Configuration」-「Launch Slot 7 OpROM」を「Enabled」に設定する必要があります。「Launch Slot 7 OpROM」の設定値を変更された場合、ブートデバイスとして使用しないスロットの「Launch Slot x OpROM」を「Disabled」に設定することを推奨します。

(20) 「オペレーティングマニュアル」および「アップグレード&メンテナンスマニュアル」の補足事項について

ODD のモデルによってはアクセス表示ランプが搭載されていない場合がありますが、問題はありません。



(例)ODD アクセス表示ランプ有りの場合



(例)ODD アクセス表示ランプ無しの場合

(21) ファイバーチャネルカード(8Gbps)(PY*FC211(L))、Dual Port ファイバーチャネルカード(8Gbps)(PY*FC212(L)) をご使用時の留意事項

ファームウェア版数が 3.29 よりも古い版数が適用されたファイバーチャネルカード(8Gbps)(PY*FC211(L))、または Dual Port ファイバーチャネルカード(8Gbps)(PY*FC212(L))を搭載し、サーバ本体の BIOS 版数が 1.25.0 より新しい版数が適用された場合、システム起動時に保守ランプが点滅し、システムイベントログ(SEL)に下記の重大(Major)のエラーログが記録されます。本メッセージに伴う、サーバ本体及びファイバーチャネルカードの動作に問題はなりません。

本エラーログの発生を回避するには、ファイバーチャネルカードのファームウェア版数を 3.29 以降へアップデートしてください。最新版は下記ダウンロードページを確認してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primergy/downloads/>

[記録されるエラーログ]

```
CLP command to device in PCI slot [PCI スロット#] failed. Command not supported
CLP command to device [デバイス名][デバイス ID] failed. Command not supported
```

※ ログは POST (Power-On Self-Test: 電源投入時自己診断) 中に複数記録されます。

尚、iRMC 8.13F 以降の場合には、重大(Major)のエラーではなく、情報(Info)としてログが記録されます。

(22) ポート拡張オプション(10GBASE×2)(PY*CN302U)、コンバージド・ネットワーク・アダプタ(PY*CN302(L))をご使用時の制限事項

本製品で以下条件に当てはまる場合、本体装置の起動時にイベントビューアーの[Windows ログ]-[システム]に下記のエラーが記録されます。

条件 1: ポート拡張オプションの場合

- ① FCoE Personality でご使用の場合。且つ
- ② Twinax ケーブルを使用していない場合。且つ
- ③ ServerView Installation Manager 11.15.09 を使用して Windows Server® 2012 R2、か Windows Server® 2012、あるいは Windows Server® 2008 R2 のオペレーティングシステムをインストールされた場合。

条件 2: コンバージド・ネットワーク・アダプタ搭載時の場合

- ④ FCoE Personality でご使用の場合。且つ
- ⑤ 10GBASE-SR SFP+が搭載されていない場合、あるいは Twinax ケーブルが接続されていない場合。且つ
- ⑥ ServerView Installation Manager 11.15.09 を使用して Windows Server® 2012 R2、か Windows Server® 2012、あるいは Windows Server® 2008 R2 のオペレーティングシステムをインストールされた場合。

イベントビューアーに記録されるエラー

ログの名前(M)	システム	ログの日付(D)	2015/xx/xx xx:xx:xx
ソース(S)	elxcna	タスクのカテゴリ(Y)	なし
イベント ID(E)	11	キーワード(K)	クラシック
レベル(L)	エラー	コンピューター(R)	YYYYYY
ユーザー(U)	N/A		
オペコード(O)			

1) ServerView System Monitor からの、保守ランプ解除方法

ServerView System Monitor を起動し、下図のように監視コンポーネントから対象のコンポーネントを確認し、リセット(赤枠)を押します。対象となる監視コンポーネントは下表の通りです。

項	監視コンポーネント(名称)	品名	型名
1	Emulex OCI14102-LOM	ポート拡張オプション(10GBASEx2)	PY*CN302U
2	Emulex OCe14102	コンバージド・ネットワーク・アダプタ	PY*CN302(L)



2) iRMC S4 からの、保守ランプの解除方法

iRMC S4 の[システム情報] - [ドライバモニタ]画面から、監視コンポーネントから対象のコンポーネントを確認し、ステータスのリセット(赤枠)を押します。



下記 URL より「コンバージド・ネットワーク・アダプタ Windows ドライバ v10.2.405.32」をダウンロードし、適用する事で本エラーを回避する事が可能です。

<http://azby.fmworld.net/app/customer/driversearch/ia/drviadownload?driverNumber=F1019406>

(23) SAS アレイコントローラカード(PY-SR3FA)を PCI スロット 7 に搭載し、ご使用する場合の留意事項

本装置において一般オプションで SAS アレイコントローラカード(PY-SR3FA)を PCI スロット 7 に搭載する場合、SAS アレイコントローラカード(PY-SR3FA)が認識されず、背面に搭載された HDD をご使用いただくことができません。BIOS 設定の「Advanced」-「Option ROM Configuration」-「Launch Slot 7 OpROM」を「Enabled」に設定することで本カードが認識され、背面搭載 HDD をご使用いただけます。「Launch Slot 7 OpROM」の設定値を変更された場合、ブートデバイスとして使用しないスロットの「Launch Slot x OpROM」を「Disabled」に設定することを推奨します。

(24) リモート接続 (SSH) 経由でのシャットダウン、再起動に関して

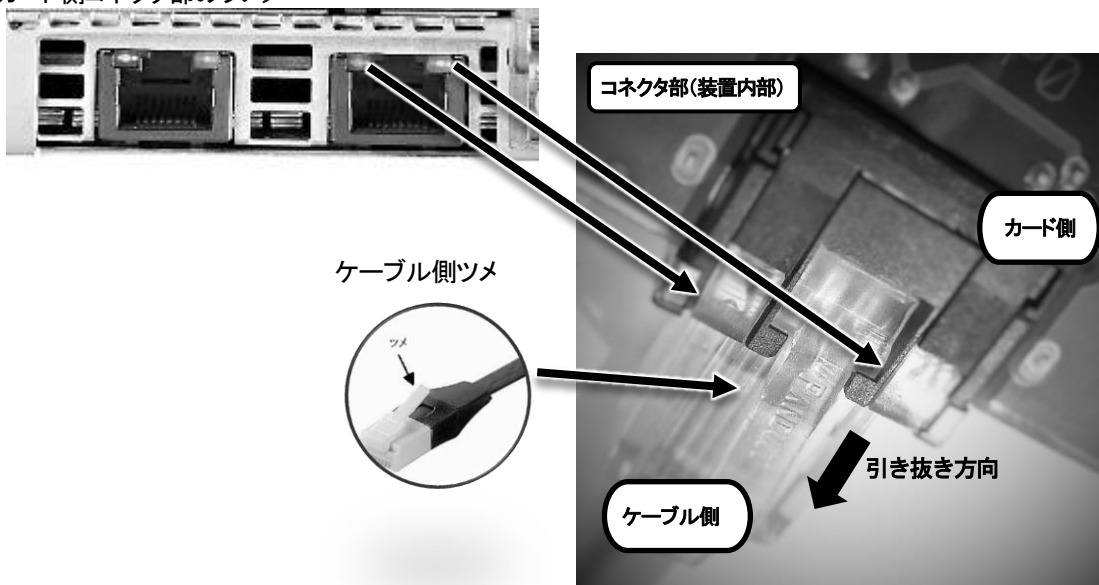
ServerView Agentless サービスご利用時に、SSH/Telnet 経由のリモート接続で、Graceful Power Off (Shutdown) 及び、Graceful Reset(Reboot)はご利用いただけません。本操作は iRMC S4 Web インターフェース経由で可能です。

※iRMC FW7.82F 以降でこの問題が修正されています。

(25) ポート拡張オプション(1000BASE-T×2) (PY-LA302U/PYBLA302U)ご使用上の注意

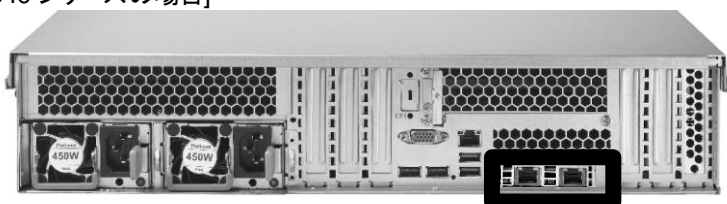
ポート拡張オプション(1000BASE-T×2)から LAN ケーブルを取り外す際に、ケーブル側ツメを押下せずに引っ張ったり、押下が不十分な状態で引き抜いたりするとカード側コネクタ部のツメが破損しロックが効かない状態になりますので、ケーブル側ツメが、カード側ツメと干渉していない事を確認した上で、装置背面と垂直な方向へ引き抜く様をお願いいたします。

<カード側コネクタ部のツメ>



本ポート拡張オプションの対象装置における筐体背面のコネクタ位置は、下記の通りとなります。

[RX2540 シリーズの場合]

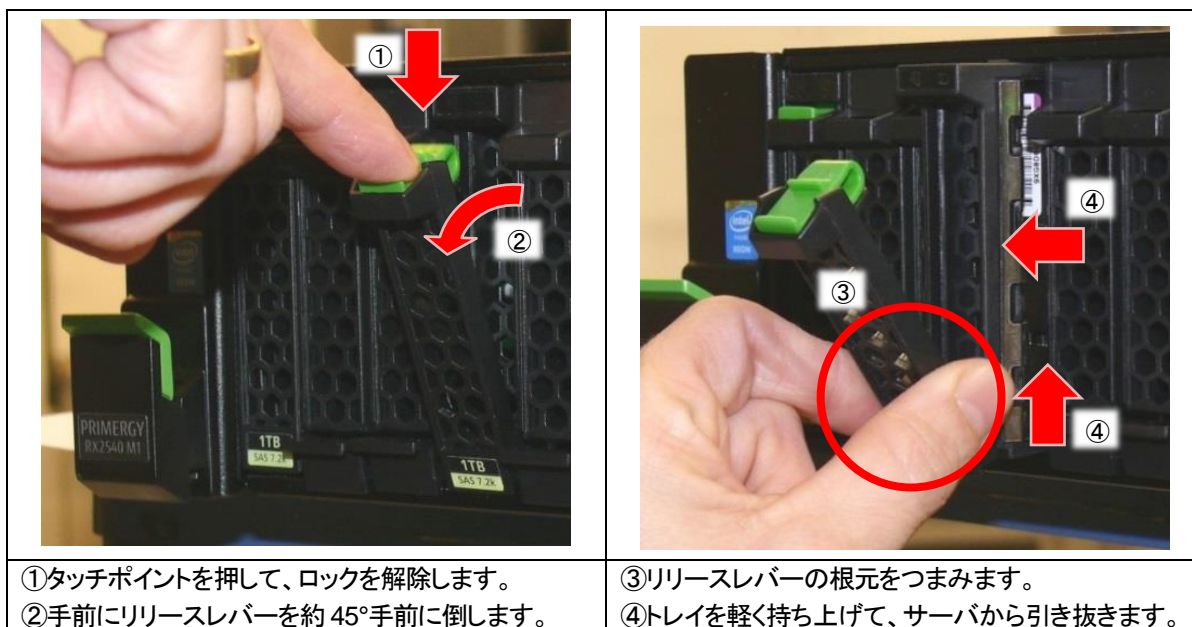


(26) 2.5 インチ HDD/SSD 取り外し時の留意について

2.5 インチ HDD / SSD を取り外す際に、下図の A の部分のフックがかかっているため抜けづらいことがあります。その際、HDD/SSDトレイへ無理に力を加えると、トレイが破損してしまうことがあります。



取り外しにくい場合は、上右図 B の方向に無理に力を加えるのではなく、下記の手順を参考に取り外してください。



※ トレイを持ち上げても引き抜けない場合は、一度 HDD/SSD を元の位置に戻して、手順①から再度実施してください。(HDD/SSD を元の位置に戻した際に、リビルドが自動実行された場合は、リビルドを停止してから、HDD/SSD を引き抜いてください。)

(27) 起動時に記録されるエラーログに関する留意事項

サーバ起動時に、稀に以下のエラーログが、システムイベントログ(SEL)に記録されることがあります。本エラーに伴う、サーバ本体の動作への問題はありません。

Legacy PCI Target Abort Bus: 0 Device: 0x00 Function: 0x00

(28) SAS コントローラカードをご使用時の HDD アクセス表示ランプについて

下表のベイ追加オプションと SAS コントローラカード(PY*SC3FA)を同時にご使用時、装置フロントパネルの HDD アクセス表示ランプは点灯いたしません。なお、HDD モジュール側の HDD アクセス表示ランプは点灯します。

装置	ベースユニット/ベイ追加オプション
PRIMERGY RX2540M1	PYR2541R3N ラックベースユニット (3.5 インチx4)
	PY*BA3406 ベイ追加オプション(3.5 インチストレージx4)
	PYBBA28S6 ベイ追加オプション(2.5 インチストレージx8)



フロントパネルの HDD アクセス表示ランプ



HDD モジュールの HDD アクセス表示ランプ

(29) PCIe SSD (PY*PS13PC/PY*PS26PC/PY*PS52PC) / 背面用ベイ追加オプション(2.5 インチ PCIeSSDx4) (PY*BA24P6)搭載時の FAN 回転数についての留意事項

本装置において PCIe SSD(PY*PS13PC/PY*PS26PC/PY*PS52PC) または背面用ベイ追加オプション(2.5 インチ PCIeSSDx4) (PY*BA24P6)を搭載し、iRMC の版数 8.43F 以降を適用した場合、本オプションを最適環境にてご使用いただくために FAN 回転数が増大します。

(30) 電源投入後のビーブ音について

ポート拡張オプション(PY*LA302U / PY*LA304U / PY*LA3A2U / PY*CN302U / PY*LA3A2U2)のファーム版数が 11.1.172.23 以降の場合、電源投入後の POST 時に数秒間ビーブ音が発生する場合があります。本ビーブ音に伴う、サーバ本体及びポート拡張オプションの動作に問題はありません。

(31) ブートデバイスとして使用するカードが搭載される PCI スロットの設定について

ブートデバイスとして使用するカードが搭載されている PCI スロットのみ Option ROM Configuration を Enabled にしてご利用ください。

(32) 省電力動作モードを使用時の注意事項について

省電力動作モードを有効にしてご使用の場合、稀に CPU IERR, PSOD, Fatal NMI といったシステムダウンが発生することがあります。(ただし、ハードウェア故障や BIOS 版数が低い場合を除きます)

BIOS 設定の [Advanced]-[CPU Configuration]-[Power Technology] を "Custom" (初期設定値: Energy Efficient) にし、下記のように設定してご使用ください。

- ・ Enhanced SpeedStep : "Disabled" (初期設定値: Enabled)
- ・ Turbo Mode : "Disabled" (初期設定値: Enabled) ※
- ・ CPU C1E Support : "Disabled" (初期設定値: Enabled)
- ・ CPU C3 Report : "Disabled" (初期設定値: Disabled)
- ・ CPU C6 Report : "Disabled" (初期設定値: Enabled)
- ・ Package C State limit : "C0" (初期設定値: C6)

※ Enhanced Speedstep が "Disabled" のままだと Turbo Mode の設定が有効にならず、変更ができないため、以下の手順で変更してください。

- ・ いったん、Enhanced SpeedStep を "Enabled" に変更する (既に Enabled の場合は不要)
- ・ Turbo Mode を "Disabled" に変更する
- ・ Enhanced SpeedStep を "Disabled" に変更する

ご使用の OS が Linux の場合は、あわせてカーネルパラメータの追記が必要です。

Red Hat Enterprise Linux 6 の場合:

① /etc/grub.conf ファイルの kernel 行に "intel_idle.max_cstate=0" カーネルパラメータを追加します。

② システムを再起動し、設定を反映させてください。

Red Hat Enterprise Linux 7 の場合:

① /etc/default/grub の GRUB_CMDLINE_LINUX 行に
"intel_idle.max_cstate=0 processor.max_cstate=0"
を追記してください。

② 以下コマンドを実行し設定値を反映

■ BIOS モードの場合

```
# grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg
```

■ UEFI モードの場合

```
# grub2-mkconfig -o /boot/efi/EFI/redhat/grub.cfg
```

※ 使用環境によって実行するコマンドに差があります

③ システムを再起動し、設定を反映させてください。

SUSE Linux Enterprise Server 12 の場合:

① /etc/default/grub の GRUB_CMDLINE_LINUX 行に
"intel_idle.max_cstate=0 processor.max_cstate=0"
を追記してください。

② 以下コマンドを実行し設定値を反映

BIOS モード/UEFI モード両方とも

```
# grub2-mkconfig -o /boot/grub2/grub.cfg
```

※ 使用環境によって実行するコマンドに差があります

③ システムを再起動し、設定を反映させてください。

(33) VMware ESXi をご利用のお客様へ

・一部ネットワークカードの省電力モードについて

Energy Efficient Ethernet(省電力型イーサネット技術)機能を保有した下記型名の LAN カードにてドライバが当該機能を有効と設定していた場合に、接続先のスイッチの当該機能の有/無および有効/無効に関係なく、稀に、CPU IERR、PSOD、Fatal NMI といったシステムダウンが発生することがあります。

PY-LA262(型名:PYBLA262/PYBLA262L 含む)

PY-LA264(型名:PYBLA264/PYBLA264L 含む)

LANドライバの設定にて、Energy Efficient Ethernet(省電力型イーサネット技術)機能を無効化してください。

・ESXi 5.0/5.1/5.5/6.0U2 以前の場合

1)以下のコマンドを実行します。

```
#esxcli system module parameters set -m igb -p "EEE=<igb ポートに対する設定値>"
```

[設定値]

0: EEE 無効

1: EEE 有効

実行例)

```
#esxcli system module parameters set -m igb -p "EEE=0,0,0,0"(*)
```

* コンマ(,)で区切ったリストは、「PCI バス番号」の小さいポートから

順番に、省電力イーサネット機能を無効化するポート毎に指定します。

今回の例は、PY-LA264(4 ポート)が 1 枚搭載されており、igb ポートが 4 つあることを前提にしているため、0(無効)を 4 つ指定しています。

なお、「PCI バス番号」とは、esxcli system module parameters set -l の出力結果が以下の時、PCI 列直下の値(例: vmnic1 の場合:0000:03:00.00)です。

Name	PCI	Driver	---
vmnic1	0000:03:00.00	igb	---
vmnic2	0000:03:00.01	igb	---
vmnic3	0000:03:00.02	igb	---
vmnic4	0000:03:00.03	igb	---

今回の例では vmnic1 の PCI バス番号が一番若いため、最初の 0 が vmnic1 に対する設定であり、2 番目に若い vmnic2 に対する設定が 2 番目の 0 となります。

(補足)ESXi シェルの有効化手順および SSH 接続の許可手順は次の VMware ウェブ Knowledge Base を参照してください。

『VMware Knowledge Base 2004746』

<https://kb.vmware.com/kb/2004746>

2)システムを再起動します。

(34) アップグレード&メンテナンスマニュアルの表記について

アップグレード&メンテナンスマニュアルの 9.1.1.1 項(p.333)に記載のメモリスロット搭載順序に誤りがありますのでご注意ください。

誤: 2つのプロセッサ構成の場合、次に、メモリスロット 1/ チャンネル D(DIMM 1D)を取り付けます。

正: 2つのプロセッサ構成の場合、次に、メモリスロット 1/ チャンネル E(DIMM 1E)を取り付けます。

(35) ツイストペアケーブルの除電について

ツイストペアケーブルは、ご使用の環境などによって、静電気が帯電することがあります。静電気が帯電したツイストペアケーブルをそのまま機器に接続すると、機器または機器の接続ポートが誤動作したり、壊れたりすることがあります。

接続する機器に接続する直前に静電気除去ツールなどをご使用いただき、ツイストペアケーブルに帯電している静電気をアース線などに放電して接続してください。

また、静電気を放電したあと、接続しないまま長時間放置すると、放電効果が失われますのでご注意ください。

(36) Red Hat Enterprise Linux 7 ご利用のお客様へ

VT-d を無効にしてご使用の場合に、“No irq handler for vector (irq -1)”のメッセージが出力されることがあります。BIOS 設定の[Advanced]-[CPU Configuration]-[VT-d]を“Enabled” (初期設定値: Enabled)にてご使用ください。

—以上—